



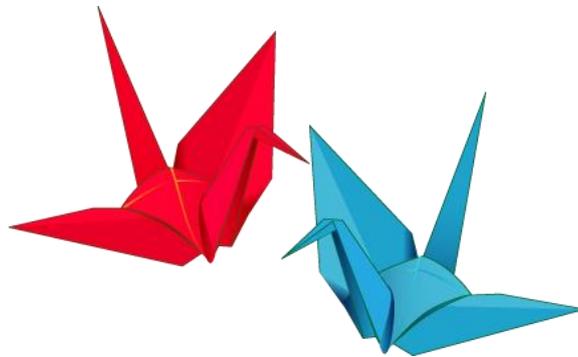
平成28年度稲敷市非核平和推進にかかわる中学生派遣事業
派遣報告書



 INASHIKI

目 次

● 市長あいさつ.....	3
● 非核平和都市宣言に関する決議.....	4
● 中学生派遣事業実施要項.....	5
● 広島派遣団・引率者名簿.....	7
● 事前研修会.....	8
● 派遣スケジュール.....	17
● 中学生派遣団員活動報告書(感想).....	21



市長あいさつ



稲敷市では、平成17年12月20日、市議会において核兵器の廃絶と世界の恒久平和を願い、「核兵器廃絶平和都市宣言」を決議しました。また、平成22年には「平和首長会議」に加盟し、恒久平和のメッセージを発信し続けております。

今年度より、被爆地である広島に未来を担う市内中学生の代表を平和大使として派遣することにいたしました。平和祈念式典への参列や、広島平和記念資料館などの平和施設の見学を通し、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さ、平和と命の尊さを学習することにより、若い世代の平和意識の高揚と平和推進活動の促進を図ってまいります。

戦後70年余りが経過した現在、被爆体験者はもとより戦争体験者そのものが少なくなっていることから、悲惨な経験をどのように後世へ語り継いでいくかが課題となっております。

また、世界に目を向けますと、今もなお領土や宗教など様々な問題をめぐり、戦争や紛争、テロが起こっている状況です。

私たちは世界で唯一の核被爆国として、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを未来を担う多くの子供たちに、そして世界全体に伝えていく責任があると強く考えております。派遣された皆様には、この事業で学んだことを忘れず、これからも平和を強く意識し、この貴重な経験を多くの人に伝えてくださることを期待しております。

平成28年9月

稲敷市長 田口久克

非核平和都市宣言に関する決議

わが国が、世界で初めて原爆投下による核兵器の惨禍を受けてから 60 年の歳月が過ぎました。

被爆のむごさと、今なおその後遺症に苦しみ将来への不安にさいなまれる人々の傷みを思うとき、核兵器は人類と絶対に共存しえないものであり、速やかにこの地球上から廃絶しなければならないことを痛感します。

戦争のない平和な世界を築くことは、人類共通の願いです。しかし今なお世界各地で戦争による惨禍が繰り返され、核兵器の実験や開発競争は人類の生存・地球環境に大きな脅威となっています。

唯一の核被爆国としてわが国が全世界に対し、核兵器全面廃棄の実現に向けて訴え続けることは、国民的使命です。

稲敷市は、世界の人々と力をあわせ、戦争のない世界、核兵器のない世界の実現をめざし、恒久平和に向けて積極的に努力することを決意し、ここに「核兵器廃絶平和都市」を宣言します。

平成 17 年 12 月 20 日

稲敷市
稲敷市議会

平和首長会議に加盟

「平和首長会議」は、世界中の都市が国境を越え、緊密な連携を通じて「核兵器のない世界」の実現を目指す国際的なネットワークで、国際連合に NGO として登録されています。2016年3月1日現在、世界161か国・地域の 6,996 都市が加盟しており、2020 年までに核兵器を廃絶することを目指す行動指針『2020 ビジョン〔核兵器廃絶のための緊急行動〕』を策定し、核兵器廃絶に向けた様々な活動を展開しています。

中学生派遣事業実施要項

1 目的

未来を担う中学生が平和祈念式典への参列などを直接体験し、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さ、平和と命の尊さを学習することにより、若い世代の平和意識の高揚と平和推進活動の促進を図る。

2 主催

稲敷市

3 期間

平成 28 年 8 月 5 日(金曜日)～8 月 7 日(日曜日) 2 泊 3 日

4 派遣団の構成及び引率

- 中学生 8 名(市立中学校に在籍している生徒で、平和学習に意欲を持ち、学校長の推薦により決定した各校男女 1 名ずつ。)
- 引率者 3 名(市職員 2 名、市立中学校教員 1 名)

5 派遣団員の役割

- ① 事前学習会(全 3 回)に参加する。
- ② 派遣終了後、1, 200 字程度の活動報告書を提出する。
- ③ 在籍する中学校や家庭、地域などにおいて機会を得、派遣を通して学んだ平和の大切さを伝える。

6 中学生派遣事業の実施経過

4月下旬	教育委員会へ派遣事業の概要説明
5月 6日(金)	校長会にて事業の概要説明・派遣団員の推薦依頼(5/11 通知)
6月 3日(金)	派遣団員の推薦締切、決定
6月12日(日)	第1回事前学習会〔顔合せ、概要説明、団長・副団長選出〕
7月24日(日)	第2回事前学習会〔事前レポート発表・提出、資料映像鑑賞〕
8月 2日(火)	第3回事前学習会〔結団式、市役所ロビーにて原爆パネル展の見学〕
8月 5日(金) ～ 7日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・1日目:千羽鶴献納、広島平和記念資料館 広島派遣 ・2日目:平和祈念式典参列、厳島神社見学 ・3日目:大和ミュージアム、てつのくじら館見学
8月29日(月)	活動報告書提出期限
9月以降	学校、広報紙で活動報告
10月以降	活動報告会



平成28年8月2日 広島派遣団結団式

広島派遣団・引率者名簿

No.	学年	氏名	性別	学校名・所属	備考
1	3	しよのう がくと 正 能 雅玖斗	男	江戸崎中学校	
2	3	おおつき かなこ 大 槻 香奈子	女	江戸崎中学校	
3	3	すけがわ ひろき 助 川 裕 紀	男	新利根中学校	
4	3	かんき れな 神 吉 玲 那	女	新利根中学校	
5	3	たかす こうた 高 須 康 汰	男	桜川中学校	
6	3	かわしま なつみ 川 島 夏 実	女	桜川中学校	副団長
7	3	ほそだ たくま 細 田 拓 摩	男	東中学校	団 長
8	3	たけだ すずか 竹 田 涼 夏	女	東中学校	
引率者		おおたか としこ 大 高 稔 子	女	江戸崎中学校教員	
引率者		わだ あつし 和 田 篤	男	稲敷市 総務部 総務課	
引率者		とぼ としゆき 鳥 羽 俊 幸	男	稲敷市 総務部 総務課	

事前研修会

広島市へ派遣するにあたり事前学習会を3回開催しました。

第1回(6月12日)

- ・派遣団員の自己紹介
- ・派遣事業の説明
- ・事前レポートの説明



第2回(7月24日)

- ・事前レポートの発表・提出
- ・事前レポートの講評
- ・広島原爆投下についての資料
映像鑑賞



第3回(8月2日)

- ・市長あいさつ
- ・教育長あいさつ
- ・派遣団決意のことば
- ・派遣団写真撮影
- ・原爆パネル展の見学



平成28年度稲敷市非核平和推進にかかる中学生派遣事業 事前学習レポート

テーマ	原爆について	学校名	江戸崎中学校
		氏名	正能 雅玖斗
<p>はじめに</p> <p>僕は広島の世界史の中で一番は原爆投下だと思ったのと世界で唯一の核兵器による被爆地が広島ということで、原爆について調べました。</p>			
<p>原子爆弾はアメリカの科学者がナチスドイツに対抗するために作りました。</p> <p>日本の戦況が圧倒的不利の中アメリカは戦争を終結する手段として原爆の使用という選択肢を選びました。アメリカは原爆投下で戦争が終わればソ連より優位に立つことができ、また膨大な経費を使った原爆開発を国民に正当化できると考えました。</p> <p>アメリカは原爆の威力を正確に測定できるように、投下目標を直径 4.8 km以上の市街地を持つ都市の中から選びました。それが、広島・小倉・新潟・長崎のいずれかでした。8月2日広島を第一目標にする命令が出されました。その理由は、広島に連合国軍兵士の捕虜収容所がないとっていたからです。原爆は投下目標を目で確認して投下することになっていました。8月6日広島は晴れており、それが可能だったので原爆が投下されました。原爆による被害は多大なるものでした。</p> <p>放射線の影響、熱線による火災、爆風などでたくさんの人や建物がなくなりました。</p> <p>核兵器のない平和な世界にするために今、平和首長会議というものが行われています。平和首長会議とは世界中の都市が国境を越えて核兵器のない世界を実現するための方針です。このように今でも核兵器の廃絶のためにいろいろな取り組みが行われています。</p>			
<p>おわりに</p> <p>今回の事業の参加で、実際に広島に行き学習するのはとても貴重な体験なので、楽しみながらもしっかりと学び、学校では学んだことをしっかりと皆に伝えたいです。</p>			

テーマ	第二次世界大戦	学校名	江戸崎中学校
		氏名	大槻 香奈子
<p>はじめに</p> <p>私は戦後 71 年目となる今年、広島・長崎に原子爆弾が落とされることになった第二次世界大戦の経緯について調べました。</p>			
<p>第二次世界大戦は、1939 年 9 月ドイツがポーランドに侵攻し、それに対してポーランドと同盟を結んでいたイギリス・フランスがドイツに宣戦布告したことによって始まりました。</p> <p>日本は、1940 年 9 月フランス領インドシナの北部に軍を進め、次いで、日独伊三国同盟を結びファシズムの勢力と近づきました。さらに 1941 年 4 月、日ソ中立条約を結び、北方の安全を確保した上で同年 7 月にフランス領インドシナの南部を占領しました。</p> <p>1941 年 12 月 8 日、日本軍はアメリカの海軍基地があるハワイの真珠湾を奇襲攻撃するとともに、イギリス領マレー半島に上陸し太平洋戦争が始まりました。</p> <p>ヨーロッパでもアジア・太平洋でもはじめは枢軸国が有利に戦争を進めましたが、1942 年後半から連合国が反撃を開始し、アメリカが中心となってドイツや日本を追いつめていきました。</p> <p>ヨーロッパでは、1943 年 9 月にアメリカ・イギリス軍がイタリアを降伏させました。東西から攻めこまれたドイツは 1945 年 5 月に降伏しました。日本も 1942 年 6 月のミッドウェー海戦で敗北してから後退を重ねていきました。</p> <p>アメリカ軍の日本本土への空襲は、はじめは軍需工場をおもな攻撃目標にしていたましたが、1945 年 3 月の東京大空襲から焼夷弾による都市の無差別爆撃を開始しました。同年、アメリカ軍が沖縄に上陸しました。日本軍は特攻隊を用いたりして強く抵抗しました。</p> <p>民間人を巻き込む激しい戦闘によって、沖縄県民の犠牲者は 12 万人以上になりました。</p> <p>1945 年 7 月、連合国はポツダム宣言を発表し、日本に無条件降伏を求めました。</p> <p>しかし、日本はすぐにはポツダム宣言を受け入れませんでした。</p> <p>アメリカは、原子爆弾を 8 月 6 日に広島、9 日には長崎に投下しました。</p> <p>ようやく日本は、ポツダム宣言を受け入れて降伏することを決め、8 月 15 日、昭和天皇がラジオ放送で国民に知らせました。</p> <p>こうして、第二次世界大戦が終わりました。</p>			
<p>おわりに</p> <p>今回の事業の参加では、命の尊さと戦争・原爆の悲惨さを学び、帰ったら平和の大切さをみんなに伝えたいです。</p>			

テーマ	平和について	学校名	新利根中学校
		氏名	助川 裕紀
<p>はじめに</p> <p>私は、広島市が核兵器廃絶と同じくらい世界恒久平和の実現を訴えていることを知りました。なので、そのために行っていることについて調べました。</p>			
<p>広島市は8月6日の平和祈念式典の中で「平和宣言」というものを発表しています。平和宣言は広島・長崎の悲惨な体験を再び経験することがないように、核兵器をなくし、いつまでも続く平和な世界を確立しようと訴えています。そして、その表現や内容には、その時代が反映されています。</p> <p>2009年に発表されたものには、その年にアメリカの大統領に就任したバラク・オバマが核兵器についてのアメリカの責任に言及したのを受け、核兵器廃絶を求める世界の多数派を「オバマジョリティー」と呼ぶことを提案しました。</p> <p>2011年には、東日本大震災や原子力発電所にふれました。このように、時代を反映することによって、さまざまな話題を通して幅広く平和について訴えていることが分かりました。</p> <p>海外でも、平和への取り組みとして原爆展が開催されています。原爆展では、被爆資料、写真パネルの展示、被爆体験証言などを通じ、被爆の実相を伝え平和の大切さについて訴えています。海外原爆展は、被爆50周年の1995年から行われており、2014年までに16か国、45都市で開催されました。</p> <p>このように、世界全体で向き合うべき問題です。</p>			
<p>おわりに</p> <p>今回の事業の参加では、広島市の平和の意識の高さを学び、帰ったら、一人でも多くの人にこの体験を伝えていきたいと思います。</p>			

テーマ	核兵器について	学校名	新利根中学校
		氏名	神吉 玲那
<p>はじめに</p> <p>私は広島の実爆で使われた核兵器について調べました</p>			
<p>核は当初、兵器目的ではなかったのだが1939年9月に第二次世界大戦が勃発すると、核のエネルギーを兵器として使用する可能性が活発に議論されるようになった。</p> <p>世界初の原子爆弾の実使用は1945年8月6日午前8時15分に広島に対して濃縮ウラン型原爆リトルボーイのB-29からの投下で実行された。ついで、その年の8月9日午前11時2分には長崎に対してプルトニウム爆縮型原爆ファットマンがB-29から投下された。</p> <p>原爆投下により両都市は一瞬にして壊滅し、数十万人が無差別に殺害された。</p> <p>原爆炸裂によるキノコ雲の頂点は17kmと成層圏に達し、雲からは放射性物質を含む黒い雨が30kmの範囲に降り注ぎ、被爆の人的被害を拡大した。</p> <p>原爆の成功に軍当局は喜んだが、原爆使用の実体が明らかになると、原爆反対の声が開発した科学者からもあがってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・爆縮・・・全周囲からの圧力で押しつぶされる破壊現象のこと。 ・濃縮ウラン・・・ウラン濃縮により、ウラン235の濃度を高めたもの。 			
<p>おわりに</p> <p>今回の事業の参加では、授業で学ばないようなことをたくさん学んで、経験して、帰ったら広島の実爆の恐ろしさなどをみんなに伝えたいです。</p>			

テーマ	原爆投下についてのいろんな人々の考え	学校名	東 中学校
		氏 名	細田 拓摩
<p>はじめに</p> <p>私は原爆を投下したアメリカの言い分、投下された日本の言い分の違いについて調べました。</p>			
<p>原爆についての考えの違いが見られます。</p> <p>アメリカでは、「原爆投下正当化論」が過半数をしめています。</p> <p>ようするに、「日本の戦争を終わらせるため」、「死者を最少におさえて終わらせた」などの意見です。</p> <p>アメリカの教育の中では「原爆投下をしたから日本の戦争が終わり、多くの生命が救われた。」と教えられることもあるようです。</p> <p>一方で、日本の考えはみなさんが思っているように「理由がどうであろうと核を使ってはいけない」という意見ですね。</p> <p>「おそろしい核を使ったアメリカがにくい」、「たくさんの命が一瞬にして消えた」という考えが日本人には多いんです。</p> <p>日本の教育では、知っていると思いますが、広島原爆についての悲しい物語などがたくさんあります。</p> <p>こうした違いがある中で、アメリカでも若者を中心に日本の意見の人たちが増えてきているようです。</p> <p>はたして本当の考えというのはどのようなことなのでしょう？</p>			
<p>おわりに</p> <p>今回の訪問で二つの国の意見を耳にした上で、理性で真実を見に行き、帰ってきたら東中の皆に「真実はこうだった」ということを広めて行きたいと思います。</p>			

テーマ	核兵器の恐ろしさ	学校名	東 中学校
		氏 名	竹田 涼夏

はじめに

私は、核兵器の恐ろしさについて調べてみることにしました。

1、核兵器・・・原子爆弾、水素爆弾など強大な破壊力を持つ爆弾のことである。ウラン、プルトニウムなどの原子核が分裂するときに巨大なエネルギーを出し、それを兵器として利用したもの。

2、核兵器の恐ろしさ

(1) 熱線による被害・・・普通のやけどとは比べものにならないほどで、重傷になると皮膚は焼けただけ、はがれ落ち肉や骨までが露出した。また、爆心地付近では、高熱で身体が一瞬で炭になったといわれる。

(2) 爆風による被害・・・爆心地から1 km以内では、一般の家屋が粉々に壊された。また、爆風に人々は吹き飛ばされたり、飛び散ったガラスの破片を身体に浴びた人もいたそうだ。

(3) 放射線による被害・・・原爆の放射線は人々の体内に入り、いろいろな細胞を壊すそうである。すぐに亡くなった人もたくさんいたが、生き延びた人も白血病やがんなどを引き起こし、今でも発病の不安を持っている人がいるそうだ。

3、核不拡散条約（NPT）・・・核兵器は現在9カ国が保有している。

このうち5カ国は核不拡散条約（NPT）のもとで、公認された核保有国である。その他、4カ国は公認されていない国である。

おわりに

私は、核兵器で大きな被害を受けた広島市を訪れ、原爆ドームや広島平和記念資料館を見学したり、平和祈念式典に参列することで戦争の悲惨な傷跡を自分の目で見てきたい。

そして、2度と戦争が起こらないように学んだことを家族や友達に平和の大切さを伝えたい。

テーマ	戦争中の人々の暮らし	学校名	桜川中学校
		氏名	高須 康汰

はじめに

私は、戦争中人々がどのような生活をしていたのか事前を知ることは、今回の派遣事業において重要だと思ったので、戦争中の人々の暮らしについて調べました。

◆配給制・切符制

食料は昭和17年から配給制となり、その後調味料、魚介類、肉、野菜など口に入るものは全て配給制になりました。だから余分な食料の入手ができなくなりました。

また、国外からの物資の輸入が激減し、食料配給は軍隊が優先されたため米の代わりに芋類や大麦などが配給されたり、配給が行われないうちもありました。これによって多くの人が栄養失調となりました。そして衣料原料なども不足しほとんど全ての繊維製品は切符制となりました。しかし品目別に購入数量が決められていて点数があっても一定量以上は購入できない仕組みになっていました。

◆集団疎開、勤労働員

米軍機による本土への空襲が始まったことで政府は国民学校児童（現在の小学生）に対し、田舎に親戚などがある者は縁故疎開を、ない者には学童集団疎開を命じました。集団疎開は家族と会えない上、食料事情や衛生状態が悪く、子供達はつらい日々を過ごしました。戦争が長引くと労働力が不足していき中学生や女学生、未婚の女性も勤労働員の対象となり軍需工場などで働かされました。これにより学生は学校で授業を受けることができなくなりました。

おわりに

戦争は多くの死者を生み、多くの人の生活を奪いました。このことから、以下に平和が大事かということが分かると思います。今回の派遣事業では、更に戦争の悲惨さを知ることになると思います。帰ったら、戦争についてみんなに伝え、戦争が忘れ去られないようにしたいと思います。

テーマ	広島原爆投下について	学校名	桜川中学校
		氏名	川島 夏実
<p>はじめに</p> <p>私は今回初めて広島に行くにあたって、教科書やテレビなどで取り上げられる原爆投下とは実際はどのようなものだったのだろうと興味を持ったので、広島原爆投下に至るまでの経緯や投下直後の広島について調べました。</p>			
<p>○広島に原爆が投下されるまで</p> <p>1945（昭和20）年7月16日</p> <p>アメリカのニューメキシコ州アラモゴードで世界初の原爆実験に成功する。</p> <p>マンハッタン計画の目標達成委員会が原爆を落とす場所を検討する。</p> <p>広島市は、①日本陸軍の船舶、運輸の中心である。</p> <p>②日本海軍の輸送船団の集合地である。</p> <p>③市内には約25,000の兵力を指揮する地方陸軍司令部もある。</p> <p>ことなどから、候補に挙げられた。</p> <p>○広島への原爆投下</p> <p>8月6日の広島はほぼ快晴だったため、原爆投下が決定された。</p> <p>同日午前8時16分</p> <p>アメリカの「リトルボーイ」（ウラン爆弾）が地上576m地点で激しい爆発を放ち爆発した。その瞬間、爆発点に数百万度、数十万気圧の火球がつけられ、急速に膨張し、強烈な熱風を放射して約10秒間輝き続けた。</p> <p>この火球によって超高圧が生まれ、一大爆風が起こり、音速なみの衝撃波を伴う爆風も発生した。また、原爆爆発後、広島は約6時間にわたり火災地獄に包まれた。</p> <p>このような熱線や爆風などにより、約20万人が犠牲となり、生き残った人々も放射能を含んだ「黒い雨」を浴びたことで、「原爆症」として今なお苦しんでいる。</p>			
<p>おわりに</p> <p>今回広島原爆投下について調べて、同じ日本に住む日本人なのに知らないことがまだまだたくさんあるなと感じました。</p> <p>今回の事業に参加では、被爆の実相や広島の歩みについて学び、帰ったら戦争の恐ろしさや平和の大切さをみんなに伝えたいです。</p>			

派遣スケジュール

— 1日目 — 8月5日(金)

06:30	稲敷市役所集合・出発～ひたちの牛久駅→日暮里→東京駅
09:30	東京駅発<新幹線>・車中で昼食(弁当)
13:30	広島駅着(広電で原爆ドーム・資料館へ)
14:00	原爆ドーム前駅着(原爆ドーム・平和記念資料館見学)
15:45	原爆ドーム前駅(広電で広島駅へ)
16:30	広島駅発→17:00 呉駅<市内のホテルへ>

— 2日目 — 8月6日(土)

06:15	ホテル発<車中で朝食(弁当)>
07:00	平和記念公園着
08:00	平和祈念式典参列(式典終了後献花)
10:00	原爆ドーム前駅～(広電)～宮島口駅
11:20	宮島口～(フェリーで約10分)～宮島(厳島神社、昼食、散策)
15:15	宮島～(フェリー→JR 宮島口)→広島駅
16:30	広島駅発→呉駅(市内のホテルへ)

— 3日目 — 8月7日(日)

08:30	ホテル発(徒歩にて大和ミュージアムへ)
09:00	大和ミュージアム見学
10:50	てつのかじら館見学
11:15	呉駅発→広島駅
12:13	広島駅発<新幹線>→東京駅
16:26	東京駅発→ひたちの牛久駅
17:40	ひたちの牛久駅→18:00 稲敷市役所着(18:45 解散)

折鶴献納、広島平和記念資料館・原爆ドーム見学

広島駅から広電に乗り、原爆ドーム前駅で降りると平和記念公園です。原爆ドームを左に見ながら橋を渡り、稲敷市の中学生みんなが恒久平和を願い折った千羽鶴を献納するため、公園内の「原爆の子の像」へ向かいました。献納後、広島平和記念資料館と原爆ドームを見学しました。

「原爆の子の像」は、佐々木禎子さんをはじめ原爆で亡くなった多くの子どもたちの霊を慰め、世界に平和を呼びかける事を目的に建造されました。

2歳の時被爆した佐々木禎子さんは、小学校6年生の時に突然白血病と診断され、8か月間の闘病生活の後、1955(昭和30)年10月25日に短い生涯を終えました。禎子さんは「鶴を千羽折ると病気が治る」と信じ、薬の包み紙や包装紙などで1,300羽以上の鶴を折り続けました。病気を乗り越え、懸命に生きようとした「サダコ」の物語は、ヒロシマの悲劇の象徴として、日本だけでなく海外でも広く語り継がれています。



平和祈念式典参列・宮島厳島神社見学

広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に参列しました。71年前の8月6日、人類史上最初の原子爆弾は、広島街を一瞬にして破壊し、多くの人々の命を奪い、目に見えない放射線により、今なお、多くの人々を苦しめています。

本年4月、広島市でG7外相会合が開催され、核兵器のない世界への気運醸成を目指す「広島宣言」が採択されるとともに、G7外相による初めての広島平和記念資料館及び原爆ドームへの訪問、原爆死没者慰霊碑への献花が行われました。

また、5月には、原爆を投下した米国の現職大統領（バラク・オバマ氏）が、初めて被爆地を訪れるとともに、被爆の実相に触れ、核兵器のない世界の実現に向けたメッセージを発信しました。



松島・天橋立とならび「日本三景」の一つである宮島は、広島市の爆心地から約17kmで、位置的に影となっていたため、直接的な被害は受けなかったと言われています。御社殿の創建は593年で、1168年に平清盛公が現在の規模に造営しました。平成8年には、原爆ドームとともにユネスコの世界文化遺産に登録されています。



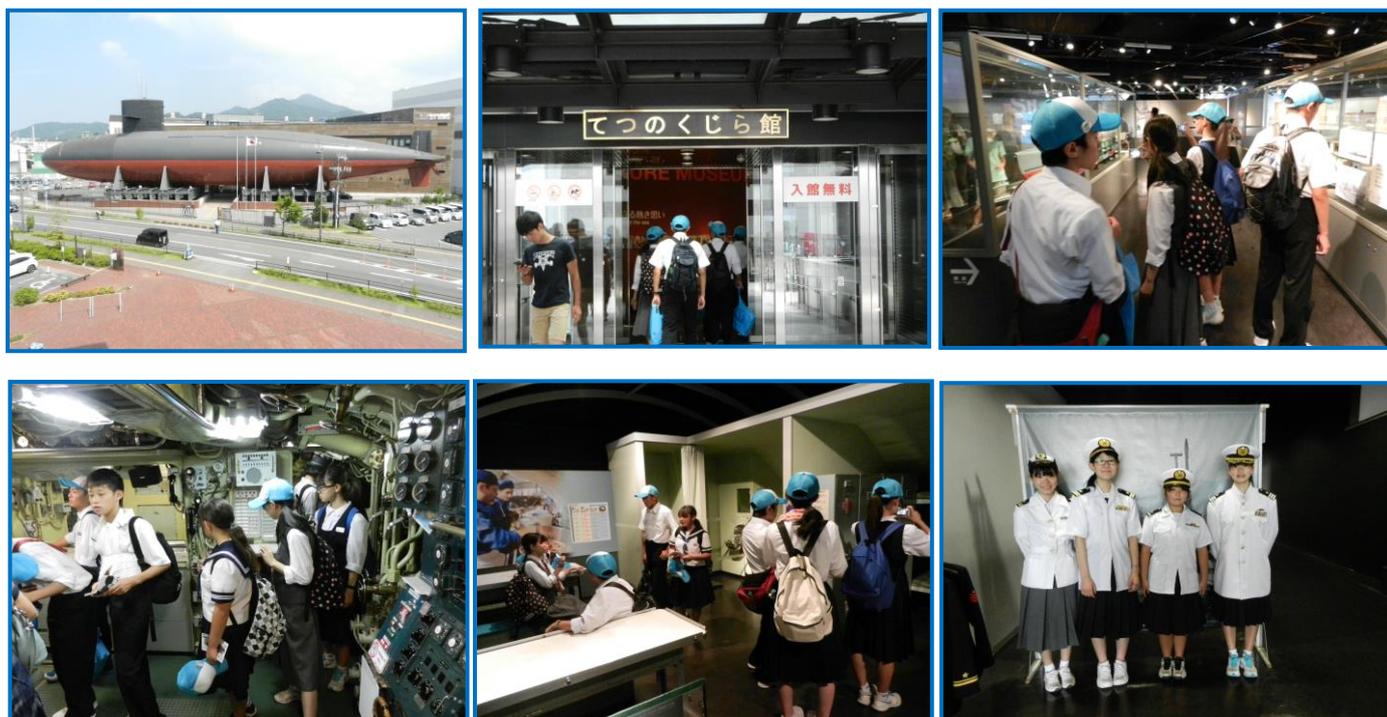
大和ミュージアム・てつのくじら館見学

呉市海事歴史科学館「大和ミュージアム」は、「呉の歴史」と、その近代化の礎となった造船・製鋼を始めとした各種の「科学技術」を、先人の努力や当時の生活・文化とともに紹介されています。



海上自衛隊呉史料館「てつのくじら館」は、呉市とともに発展してきた海上自衛隊の歴史の紹介とともに、潜水艦や掃海艇の活躍を様々な角度から紹介しています。

陸上に展示されている迫力満点の潜水艦「あきしお」は、平成16年3月に除籍となった潜水艦です。



中学生派遣団員活動報告書(感想)

平和祈念式典に参加して感じたこと

江戸崎中学校 三年 正能 雅玖斗

僕は非核平和推進にかかる中学生派遣事業で稲敷市の代表として8月5日、6日、7日に広島へ行ってきました。

一日目は稲敷市から5時間の移動で広島に着きました。広島市内の移動は「広電」を使用しました。広電は路面電車で、とてもレトロな雰囲気が出ていました。一番初めに行った場所は、平和祈念式典が開催される平和記念公園です。公園内では、翌日行われる平和祈念式典の準備が進められていました。原爆の子の像では、稲敷市中学生一同として千羽鶴を奉納しました。その後、平和記念公園から少し歩いたところにある広島平和記念資料館に行きました。資料館では被爆についての写真や資料、被爆者の遺品や核爆弾について様々なことを見学し学ぶことができました。改めて戦争の恐ろしさ、平和の尊さを実感できました。

二日目はメインの平和祈念式典への参列をしました。テレビで見るのと生で見るのとでは、生で見の方がより一層平和について感じるができます。安倍首相の声も直接聞くことができ、小学校6年生2名の堂々たるスピーチは本当に凄いなと思いました。テレビ中継もされて、海外や他県から来た沢山人々がいる中で僕はあんな風なスピーチはできないなと思いました。



式典閉式後は一人ひとりが献花を行い、願いを込めて手を合わせました。平和記念公園内には献花する花を配ったり、戦争関係について語ったり、テレビ中継や新聞記者など様々な方がいました。僕も新聞記者にインタビューされました。貴重な体験がさらに貴重な体験になりました。

その後、世界文化遺産になっている宮島の厳島神社にフェリーで行きました。満潮の時、大鳥居が海の中に立っている厳島神社はとても幻想的で生で見られてよかったです。宮島

はしゃもじが有名だと聞いたので、しゃもじを買いました。今回の派遣事業のメインとなる平和祈念式典への参列と宮島見学がとてもいいものになってよかったです。

最終日はホテルから徒歩で行ける大和ミュージアムと、てつのくじら館に行きました。大和ミュージアムは海事歴史科学館で模型などが沢山あって迫力満点でした。てつのくじら館は自衛隊の資料館で巨大な潜水艦が陸上展示されていました。その潜水艦は内部が見学できて、手術をするところだったり操縦席だったり本当に興味深かったです。海上自衛隊の人がいて、潜水艦内部の説明をしてくれたり生活の仕方を教えてくれたり、海上自衛隊の制服を着せてくれたりしました。

僕はこの派遣団に参加してよかったと思っています。その理由は、派遣団の仲間と友達になれたからです。初めは全く知らず緊張もしていましたが日が経つにつれてみんな沢山話せるようになりました。さらに、ほとんどの人が生徒会に所属しているということもあり、今後学校で活かしていけるようなこともできました。ホテルの夜もみんなでトランプをしたり話をしたり、またみんなで遊びたいと思えるメンバーになりました。



今回の派遣事業で学んだ「戦争の悲惨さ」や「平和の尊さ」、「核兵器の恐ろしさ」などを今後学校のみんなや地域の人達に伝えていきたいと思います。



広島市を訪れて

江戸崎中学校 三年 大槻 香奈子

私は江戸崎中学校の代表として、稲敷市の「非核平和推進にかかる中学生派遣事業」に参加させていただきました。

広島では、平和祈念式典の参列だけではなく色々なところを見学させていただくことができ、とても勉強になりました。

広島平和記念資料館では、被爆者の遺品や被爆の悲惨さを示す写真、資料が展示されていました。通路や天井には原爆の影響で変色してしまったレンガがあったり、展示されている写真を見ながら涙を流している人がいて、原爆とはとても悲惨で残酷なものだと改めて思いました。



原爆ドームは、爆心地からとても近いのに半分近くが崩れずに残っていて強さを感じました。まるで、このようなことを二度と繰り返してはいけないと言っているようでした。



大和ミュージアムでは、呉市の歴史と造船などの科学技術が当時の生活に触れながら紹介されていました。大きな戦艦や戦闘機の模型が展示されていて、迫力がありました。

てつのくじら館は、海上自衛隊関連の施設で第二次世界大戦や潜水艦の活躍が展示されていました。実際に使われていた潜水艦の中を見学したり、海上自衛隊の制服を試着したり楽しく学ぶことができました。

そして、平和祈念式典です。去年はテレビのニュースで見ているだけだったので、自分が参列しているなんて思っていませんでした。テレビ越しでも伝わってくる厳粛さは会場ではより一層重く感じました。また、式典終了後には献花をさせていただき、少しでも原爆の犠牲となられた方々のためになれたらと思いました。

この他にも、宮島の厳島神社や五重塔を見学したりなど貴重な体験をさせていただきました。また、事前学習の時はあまり話さなかった派遣団のメンバーとも仲良くなることができました。一生の思い出になりました。本当にありがとうございました。

今回の事業に参加して学んだことを学校の友達や家族など、一人でも多くの人に原爆の悲惨さや平和の大切さを伝えたいと思いました。

ずっと伝えていかなければならない事

新利根中学校 三年 助川 裕紀

今の広島はもうほとんど、あの時の跡はありませんでした。そして、原爆投下から70年以上が経過し、被爆者の平均年齢は80歳を超えました。あの出来事は、この先もずっと伝えていかなければなりません。それは研修を通じて、さらに強く感じました。そしてこの研修では、あの出来事の悲惨さを実感しそれを伝えていくにはどうすればよいかを考えさせられました。

平和記念資料館を見学しました。すると、爆発直後にとられた写真のパネル展示があり私はショックを受けました。ケロイドを負った女性、跡形もなくなった建物の瓦礫の山など、その悲惨さは以前私が知っていたものをはるかに上回りました。そして、原子爆弾の熱線や爆風の威力、放射線の恐ろしさを感じました。また、抱えられていた水筒、中身が炭化した弁当などの遺品も展示されて



いました。これらは殺りくが無差別に行われた意味や非道さ、そして一人ひとりの悲劇がそこに込められているようでした。これら資料館にある一つ一つに、原子爆弾が起こしたことの真実を突き付けられるような感覚でした。そしてそれは許されないこと、二度としてはいけないことと思いました。



平和祈念式典に参列しました。その中で、子ども代表が献花や平和の誓いをしている場面や、自分たちのような中学生も多く参列している姿を見て、関心の高さを感じました。このように被爆の実相や平和の尊さを伝えていくには、自分を含めた次の世代の力が不可欠です。それは自分たちが理解するだけでなく、その次の世代にも伝えていくことが大切だと思いました。

また、外国人の姿も多く見かけました。しかも今年の5月、初めてアメリカの現職大統領が広島を訪れるなど国際的に平和への意識が高まっていると感じました。式典は、日常的に感じている平和への願いを目で見える形で未来に伝えていたと思いました。



研修を通して核兵器の危険性を改めて感じました。そして、今なお苦しんでいる人がいることに驚きと怒りを感じます。私はこの体験を通して、世界の恒久的な平和に向けて自分ひとりではできなくても、この事実を多くの人に知ってもらい一人ひとりが創る平和な世界の実現に貢献していきたいです。



広島への派遣事業を通して

新利根中学校 三年 神吉 玲那

八月五日から七日までの三日間、非核平和推進にかかる中学生派遣事業の派遣団として広島に行ってきました。

一日目は、原爆ドームと広島平和記念資料館の見学、千羽鶴の奉納をしました。

広島平和記念資料館には、原爆の熱で一部が溶けたり変形したりしたものや、被害にあった当事の広島の写真などが展示されていました。どれもが戦争の悲惨さや、核兵器の恐ろしさを物語っているようでした。また、今年五月に訪問された、アメリカ合衆国のバラク・オバマ大統領の折鶴も展示されていました。原爆を落とした国の現大統領が、原爆を落とされた広島に訪問することは、とても大きな出来事だということを実感しました。



二日目は、平和祈念式典に参列し、その後宮島、巖島神社を見学しました。



平和祈念式典には、私たちと同じように、他県からの小・中学生の団体がたくさん来ていました。とても人が多く、大きな式典だということを改めて感じました。また、いつもはテレビで見たり、聞いたりしているスピーチを、実際に生で聞いたので、とても心に響きました。また、献花の花や、式典のプログラムを配っていたのは、広島の子

どもたちでした。このように、この式典は地域全体でつくりあげられているのだと思いました。

三日目は、呉市の大和ミュージアム、てつのくじら館を見学しました。

大和ミュージアムには、戦争に使用された戦艦大和の模型や、第二次世界大戦の説明がたくさん展示してあり、第二次世界大戦について、より深く知ることができました。

この三日間で、戦争の恐ろしさ、悲惨さを実感しました。特に核兵器は、一瞬で町を消失させ、後世まで人々を苦しめる恐ろしいものであるということがよくわかりました。地球上から核兵器をなくし、平和な世界をつくるのがどんなに大切なことかもよくわかりました。世界中の人たちに、ぜひ広島を訪れてほしいと思いました。また、市内の他の中学校の人たちと一緒に過ごし、情報交換したりして、交流を深めることもできました。とても充実した派遣事業でした。この事業で感じた事、体験した事を学校のみんなに伝えていきたいと思います。

広島で感じた事

桜川中学校 三年 高須 康汰

私は今回の派遣事業で三日間広島を訪問し、平和祈念式典参列や平和記念資料館の見学などを行いました。



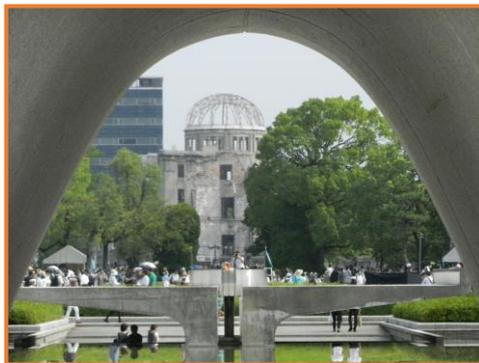
平和記念資料館には焦げた学生服や自転車、人の影がついた石、焼けた人の爪など現実とは思えない資料が沢山ありました。資料を見ていると、今の私達の生活がどれだけ幸せで、いかに平和が大切なのかということが分かりました。また戦争は二度と起こしてはいけな
いと感じました。

翌日は平和祈念式典に参列しました。今まで平和祈念式典はテレビでただ見るだけ聞くだけで、ほとんど内容は残っていませんでした。しかし前日に資料館へ行き、原爆投下によってどのようなことが起こったのか、原爆の被害者はどのようなことを思い生活をしていたのかを知ったことで、今までとは違い平和宣言など平和に向けた強い思いが私の胸を強く打ちました。



私は世界平和や核兵器廃絶を実現するためには、世界が一つになっていかないと実現できないと思います。しかしアメリカには戦争を終わらせる為に原爆を投下したという考えが残っています。そこでまず、アメリカをはじめ世界の人々に原爆投下により多くの命が失われたこと、今もまだ後遺症に苦しんでいる人がいるということを知ってもらう必要があると思います。そうすれば世界の人々も考え方が少しずつ変化して、核兵器廃絶や世界平和に向けて世界が一つになっていけるのではないのでしょうか。戦争が忘れ去られれば、また同じことが起こります。そうならない為にも、私達が戦争の悲惨さを次の世代に伝え世界に発信していかなければなりません。

私は今回の派遣事業で、戦争の悲惨さだけでなく、命の尊さ、平和の大切さも感じました。歴史は繰り返されるという言葉がありますが、この戦争という歴史は絶対に繰り返されてはいけ
ない歴史なのです。



核兵器の廃絶は、被爆者の方々が生きている間に達成することは難しいかもしれません。そして戦争を体験した人がいなくなるときが必ず来ます。その時に核兵器の廃絶に向けて努力できるのは、次の世代の私達だけなのです。だからこそ、被爆者の思いを受け止め核兵器のない世界に向けて努力していく、そして戦争が忘れ去れぬよう次の世代へ伝えることが私達のすべき事なのです。



広島への派遣事業を通して

桜川中学校 三年 川島 夏実

平和祈念式典に参列するために、初めて訪れた広島。そこは、私に多くのことを教えてくれました。

平和記念資料館に入ってまず目に飛び込んで来たのは、原子爆弾の熱線によってドロドロに溶けた手を伸ばしながら助けを求める少女の像でした。人間とは思えないその姿に、私は思わず目を背けてしまいました。さらに進んでいくと、被爆者の方が描いた原爆投下直後の広島の絵が展示されていました。



街は火の海となり、性別も年齢も分からない程焼け焦げた死体が、地面を覆い隠すように転がっている。その絵を見て、私は地獄絵図のようだと感じました。実際にこの光景を見た人は、私達には想像も出来ないくらいのショックを受けたのではないかと思います。

原子爆弾の恐ろしいところは、他の兵器と違って大量の放射線を放出するところです。その放射線を浴びた人達は発熱、出血などの症状が出て亡くなったそうです。また外傷が全く無く、無傷と思われていた人達も、数日後に突然同じような症状が出て亡くなっていったということを知りました。原因も分からずに病気にむしばまれ、苦しみ、同じような症状で亡くなっていく人を見ていた被爆者の方は、不安や恐怖でいっぱいだったのではないかと思います。



その後、原爆ドームに行きました。壁や天井はぼろぼろに崩れ、ほとんど骨組になってしまっていて、それを見ていると原爆投下の時の様子が目に浮かぶようでした。

資料館の資料や原爆ドームを実際に見て、原子爆弾の他の兵器とは比べものにならない威力を肌で感じました。また、一瞬にして何十万人もの罪の無い人々の命や、街の美しい景色を奪う核兵器は、この世界にはいらんと思いました。



今回の派遣事業を通して、戦争について知り、普段はあまり考えることのない平和について深く考えることができました。そして平和な世界とは、誰もが安心して生活し、夢や希望、笑顔が溢れるものではないかと私は思いました。

そんな世界をつくるのは、とても難しいと思います。しかし、一人ひとりが戦争について知り、次の世代に戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさを伝えていけば、

平和な世界に向かって進んでいけると思います。

核兵器廃絶のため、平和を願い、核兵器の無い社会を実現するという強い意志を持ち、世界に向けて声を上げていきたいと思っています。



非核平和推進にかかる中学生派遣事業活動報告

東中学校 三年 細田 拓摩

私は非核平和推進にかかる中学生派遣事業の活動を通して、とても大事な事を二つ改めて学ぶことができました。

まず一つ目は、この派遣団の目的である「核の悲惨さ」や「戦争の悲惨さ」について改めて知れたことです。私たち派遣団は8月6日の広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に参列し、広島の人々や内閣総理大臣のスピーチを聞いてきました。その中で一番心に響いてきたのが広島市の子ども代表の平和への誓いでした。

子ども代表の人たちはこんなことを言っていました。「私たちは、待っているだけではいけないのです。誰が平和な世界にするのでしょうか。夢や希望に溢れた未来は、僕たち私たち、一人ひとりが創るのです。」この言葉がとても身にしみました。私たち若い世代が引っ張っていこうと改めて感じさせられました。



また、広島平和記念資料館にも行きました。そこでは広島市の被爆者の遺品や焼けた瓦、被害にあった数々の物や写真を見てきました。そこでもそうですし、てつにくじら館や大和ミュージアムへ行き教科書の中の歴史ではなく、実際に見ることやふれること、感じることでより深く考えることができました。私は事前レポートの中で「原爆に対する日本とアメリカの違い」を調べましたが、広島への派遣団を通して改めて核はいかなる時も使ってはいけないと正しいなんてありえないと思いました。



そしてもう一つ、大事な事に気づきました。それは他校とのふれあいです。この派遣団の前は仲良くなれるか不安でしたが、帰ってくるころにはみんな親友同然のように仲が良くなりました。ホテルではお互いの学校の情報を交換したりして、とても大切な時間になりました。人とのふれあいを避けてきた方なので、これからはたくさんの人たちとふれあってたくさんの人たちと手を取り合い、世界の平和へ道を切り開いていきたいと思えます。

広島市を訪問して

東中学校 三年 竹田 涼夏

私は、非核平和推進の使節団の一員として8月5日から7日にかけて広島市を訪問しました。

広島原爆による被害については、1945年8月6日に原爆が投下されてからすでに71年が経過していることから私は何も知りませんでした。しかし、社会科の授業で原爆により皮膚がケロイドになったり、ガンになってしまったりといった被害を受けた人々の写真を見て、原爆の脅威に驚きました。また、この訪問の事前学習では、核兵器について調べました。核兵器とは、ウランやプルトニウムなどの原子核が分裂するときに巨大なエネルギーを出し、それを兵器として利用したものであること、たった一発で何十万人もの人を殺し、町を破壊することや目には見えない放射線を出して、放射線被害によって多くの人が亡くなったり、病気になったりしたことなどを学習しました。

8月5日の訪問初日は、爆心地のすぐ近くにある原爆ドームと広島平和記念資料館を見学しました。原爆ドームはテレビや写真では見たことはありましたが、思っていたよりも大きく、コンクリートが黒ずみ、骨組が見えている所もありました。

次に見学した資料館には、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真が展示されていました。焼け焦げ



た三輪車や真っ黒に焼けたお弁当箱、穴があいてボロボロになった服、熱戦をあびて指の先端から皮膚を突き破るように出てきた棒状の黒いツメなどが展示されていました。社会科の授業や事前学習で原爆の被害については学習していましたが、実際に原爆ドームや資料館の展示物を見学して、想像以上に原爆による被害は凄まじく、衝撃的でした。



訪問2日目は、平和祈念式典に参列しました。式典に参加して一番心に残っているのは、小学6年生が話した「平和への誓い」の中の「被爆者から託された声を伝える責任がある。」という言葉です。この言葉を聞いて命の尊さ、戦争の悲惨さを、戦争を知らない私達のような若い世代や世界の人々に伝えていくことが大切であるとつくづく感じました。

私達が訪問した3日間は、最高気温が35度を超え今まで体感したことのないような暑さでありましたが、他の団員との交友を深めることができとても充実した日々となりました。この3日間で学んだことや感じたことを友達や家族に伝えていきたいと思います。





稲敷市 総務部 総務課